

2025年度 一般選抜

日本史

〈文学部全学科共通問題〉

1月25日実施 A日程

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、12ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

| 解答 番号 | 解 答 欄 | | | | | | | | | |
|----------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

7. 解答番号は～です。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムで正しいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題 I

次の史料を読んで、後の問いに答えなさい。なお、*の付いた語句には、文末に注があります。

[史料 I]

凡そ (A) 給はむことは、男に二段。女は三分の一を減ぜよ。五年以下には給はざれ。其の地に寛狭有らば、郷土の法に従へよ。……

凡そ田は六年に一たび班へ。神田・寺田は此の限に在らず。若し身死にたるを以て田退くべくは、班はむ年に至らむ毎に、即ち取り授ふに従へよ。

(『令義解』
a)

[史料 II]

辛亥、太政官奏すらく、「頃者、百姓漸く多くして、田池窄狭なり。望み請ふらくは、天下に勧め課せて、田疇を開闢かしめむ。其れ新たに溝池を造り、開墾を営む者有らば、多少を限らず、給ひて、三世に伝へしめむ。若し旧の溝池に逐はば、其の一身に給はむ」と。奏するに可としたまふ。

(『続日本紀』)

[史料 III]

乙丑、詔して曰く、「聞くならく、墾田は養老七年の格に依りて、限満つる後は例に依りて収授す。是に由りて農夫怠倦して、地を開きし後荒みぬ。今自り以後、任に私財とし、三世一身を論ずること無く、咸悉く永年にとること莫れ。其れ親王の一品及び一位には五百町、二品及び二位には四百町、……初位已下庶人に至るまでには十町。但し郡司には大領少領に三十町。……」と。

(『続日本紀』
c)

[史料 IV]

(万寿二年七月) 十一日、辛卯……去る九日、丹生使蔵人檢非違使棟仲、大納言能信卿の山城国の庄の雑人に、小舎人の頭を打ち破らる。濫行極まり無し。

仍^{よつ}て使^{*13}の官人を差し遣はすと云々。天下の地、悉^いく一^{いち}家^{のいえ}の領となり、公領^{*15}は立^{りつ}錐^{*16}の地も無^{すい}き歟。悲^かしむべきの世なり。

(B)

[注]

- * 1 郷土の法…その地方の事情。
- * 2 窄狭…せまい。
- * 3 田疇…田地。
- * 4 開闢かしめむ…開墾させる。
- * 5 怠倦…あきてなまけること。
- * 6 任に…意のままに。
- * 7 万寿二年…1025年。
- * 8 丹生使…吉野の丹生神社に送られる祈雨の使者。
- * 9 棟仲…平棟仲。
- * 10 能信…藤原能信。道長の五男。
- * 11 庄…荘園。
- * 12 小舎人…蔵人所に属し、宮廷で殿上人の世話をする官人。
- * 13 使…検非違使。
- * 14 一家…摂関家のことを指す。
- * 15 公領…国衙領。
- * 16 立錐…錐^{きり}を立てること。

1 史料Ⅰは養老令の田についての規定である。空欄 (A) に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 賜田 ② 位田 ③ 職田 ④ 口分田

2 史料Ⅰの規定で、女性に与えられる (A) の面積として最も適切な値を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 240歩 ② 360歩 ③ 480歩 ④ 720歩

3 史料Ⅰによれば、養老令では班田は何年ごとに行うことになっていたか。

最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 12年 ② 6年 ③ 5年 ④ 1年

4 下線部 a の史料は養老令の公式な注釈書である。この史料が成立したのはいつか。最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 833 ② 835 ③ 837 ④ 839

5 史料Ⅱの法令は、史料Ⅲの下線部 b にある「養老七年の格」と同じものである。史料Ⅱの法令は何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 墾田永年私財法 ② 荘園整理令
③ 班田収授法 ④ 三世一身法

6 史料Ⅱの法令が出されたときに政権の中枢にいた人物は、この後、謀反を企てたと密告され、妻の吉備内親王とともに自殺させられる。その人物として最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 藤原仲麻呂 ② 藤原広嗣 ③ 長屋王 ④ 橘諸兄

7 史料Ⅱの内容として、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 近頃は養老令に定められた以上の土地を望む者が多く、土地が不足している。
② 開墾に当たって新たに溝池を造った場合、その土地の所有は開墾者の三世代に認められる。
③ もともとあった溝池を利用して開墾した場合は、その土地の所有は開墾者に認められない。
④ もともとあった溝池を利用して開墾した場合、その溝池は開墾者にのみ所有が認められる。

8 史料Ⅲの法令は『類聚三代格』にも収録されているが、『類聚三代格』のいう三代の格にあてはまらないものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 延喜格 ② 弘仁格 ③ 延暦格 ④ 貞観格

- 9 史料Ⅲの法令に関する説明として、誤っているものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① これ以降、開墾した土地は永年収公されず、不輸の私有地として認められることとなった。
 - ② 史料Ⅲによれば、養老七年の格では、開墾地は期限が来れば収公されるものであったため、百姓は耕作をやめ、開墾した土地が荒地になることがあった。
 - ③ 許可される開墾面積には身分によって差が設けられた。
 - ④ この法令は、朝廷が掌握する田地を墾田にまで拡大し、土地支配の強化をはかるものであった。
- 10 史料Ⅲの法令はいつ出されたか。最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 713 ② 723 ③ 733 ④ 743
- 11 史料Ⅲの法令が出された年の出来事として、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 『風土記』編纂の開始 ② 国分寺建立の詔の発布
 - ③ 大仏造立の詔の発布 ④ 多賀城の設置
- 12 下線部cの史料は、朝廷が編纂した6つの正史（六国史）に含まれるものである。そのうちの何番目に成立した歴史書か。最も適切な数字を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 2 ② 3 ③ 4 ④ 5
- 13 史料Ⅲがきっかけとなって律令制の土地制度が変質し、大寺院などによる大規模な開墾と土地所有が起こった。この土地を何というか。最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 公営田 ② 初期荘園 ③ 寄進地系荘園 ④ 官田
- 14 史料Ⅲがきっかけとなって始まった、開墾による大土地所有は次第に衰退していったが、やがて、自分の開発した土地を中央の権力者や大寺院に寄進し、課税を免れるものが増えていった。摂関家はそのような土地を集積し

ていったが、史料Ⅳはこうした摂関家の荘園に関係するものである。史料Ⅳの内容に合致するものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 丹生使の平棟仲は、藤原能信の荘園の雑人に暴力を振るった。
- ② 丹生使の平棟仲は、山城国の荘園の雑人に命じて、小舎人に怪我をさせた。
- ③ 天下の土地の多くは摂関家の土地となり、その場所には錐を立てて示した。
- ④ 天下の土地の多くは摂関家の土地となり、国衙領はほとんどなくなった。

15 空欄（ B ）には、藤原道長と同じ頃に公卿として活躍した藤原実資の記した日記の名称が入る。その名称として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 『中右記』 ② 『御堂関白記』 ③ 『小右記』 ④ 『西宮記』

問題Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の歴史において、兄弟間の対立による政争・戦争が頻繁に起こっていた。特に中世では、当人同士の争いに終わらず、様々な勢力を巻き込み、歴史を動かす大事件に発展することが多かった。

1185年、壇の浦の戦いで平氏が滅亡すると、源頼朝は弟の義経と対立した。義経は頼朝に対して兵を挙げたが失敗し、京都から逃亡した。頼朝は朝廷に迫って、行方不明となった義経の追討を名目として、諸国に（ A ）を、荘園・公領には（ B ）を任命する権利などを獲得した。その後、1189年に頼朝は義経の逃亡先であった奥州藤原氏を滅ぼした。

頼朝の子には、頼家と実朝の2人がいた。両者が直接対立することはなかったが、頼朝の妻北条政子の父である北条（ C ）は、頼朝の死後、鎌倉幕府2代将軍に就任した頼家を廃し、その弟の実朝を新たな将軍に立てて幕府の実権を握

り、他の有力御家人を滅ぼしていった。 (C) の地位は (D) と呼ばれて、その子どもたちに継承されることとなった。

南北朝時代、北朝から征夷大将軍に任じられた足利尊氏は、弟の直義と政務を分担して政治を行っていた。しかし、直義を中心とする勢力（直義派）は、尊氏の執事高師直を中心とする勢力（尊氏派）と対立し、1350年に両者は武力対決に突入した。(E) と呼ばれるこの抗争は、直義の敗死によって決着がつくかと思われたが、その後も10年余りにわたって尊氏派、旧直義派、南朝勢力の3者が離合集散を繰り返した。

南朝は、後醍醐天皇の孫の長慶天皇が室町幕府に対する強硬姿勢を貫いていたが、兄から皇位を譲られた後龜山天皇が、(F) 年に室町幕府3代将軍足利義満との和睦に応じたことで、北朝との合体を果たした。

室町幕府8代将軍足利義政は、当初、跡継ぎがいなかったため、弟の義視に将軍職を譲ろうとしていた。しかし、のちの9代将軍義尚が誕生したことで、義尚を推す義政の妻の日野富子と義視との間で家督争いが起こった。そこに幕府の重臣たちの家督争いがからんだことで、(G) 年に応仁の乱が勃発した。

一方、関東では南北朝時代以降、室町幕府の出先機関として関東を統治していた鎌倉府（関東府）の鎌倉公方が、1454年に起こった享徳の乱を機に、足利成氏の古河公方と、8代将軍義政の兄政知の堀越公方とに分裂し、関東(H) 上杉氏も山内・扇谷の両上杉家にわかれて争っていた。このうち政知自身は、兄弟の義政・義視の将軍をめぐる争いに関与はしなかったが、その子の義澄は11代将軍となり、それ以降、室町幕府の滅亡まで京都の将軍を継承することとなる。

16 下線部aについて、このとき義経は頼朝追討の命令を得ていたが、その命令を出したのは誰か。最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 後白河法皇 ② 後鳥羽天皇 ③ 高倉天皇 ④ 白河法皇

17 空欄 (A) に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 国司 ② 郡司 ③ 守護 ④ 地頭

18 空欄（ B ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 国司 ② 郡司 ③ 守護 ④ 地頭

19 下線部 b について、奥州藤原氏と関連しないものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 中尊寺 ② 後三年の役（後三年合戦）
③ 浄土式庭園 ④ 富貴寺大堂

20 空欄（ C ）に入る最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 時頼 ② 時政 ③ 泰時 ④ 義時

21 下線部 c について、鎌倉時代に北条氏に滅ぼされた御家人の説明として、誤っているものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 1203 年に頼家の後見の比企能員が滅ぼされた。
② 1213 年に侍所の長官（別当）であった和田義盛が滅ぼされた。
③ 1247 年に三浦泰村一族が滅ぼされた。
④ 1285 年に平頼綱が北条高時に滅ぼされた。

22 空欄（ D ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 管領 ② 執権 ③ 御内人 ④ 得宗

23 空欄（ E ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 承久の乱 ② 明徳の乱 ③ 観応の擾乱 ④ 応永の乱

24 下線部 d について、このときの北朝の天皇は誰か。最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 後光厳天皇 ② 光明天皇 ③ 後小松天皇 ④ 光厳天皇

25 下線部 e の説明として、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 鎌倉幕府以来の法秩序を重んじる勢力。

- ② 旧来の秩序に対して武力による所領拡大を願う新興勢力。
- ③ 摂政・関白や院政を否定した後醍醐天皇の政治理念を重視する勢力。
- ④ 北条氏による政治の復活を願う新興勢力。

26 空欄 (F) に入る最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 1391 ② 1392 ③ 1394 ④ 1399

27 下線部 f について、足利義満の説明として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 京都の市政権や諸国に課する段銭の徴収権など、それまで摂関家が保持していた権限を掌握した。
- ② 強大となった守護の統制をはかるため、土岐氏・山名氏・赤松氏などの外様の有力大名を攻めて、その勢力の削減につとめた。
- ③ 朝廷でめざましい昇進をとげ、将軍を辞するとすぐ太政大臣にのぼった。
- ④ 将軍や朝廷の官職を辞して出家したあとも、京都の東山につくった山荘に移って幕府と朝廷に対する実権をふるい続けた。

28 下線部 g について、家督争いが起こっていた幕府重臣の二氏として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 畠山・細川 ② 細川・赤松 ③ 斯波・細川 ④ 畠山・斯波

29 空欄 (G) に入る最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 1441 ② 1457 ③ 1467 ④ 1477

30 下線部 h の説明として、誤っているものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 鎌倉府の組織は京都の幕府と大きく異なっており、権限も小さかった。
- ② 鎌倉府は関東8カ国と伊豆・甲斐を、のちには陸奥・出羽も支配した。
- ③ 2代将軍足利義詮の弟の基氏が初代鎌倉公方をつとめた。
- ④ 鎌倉府管内の守護は鎌倉に邸宅をもち、鎌倉府に出仕した。

31 空欄 (H) に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、

番号で答えなさい。

- ① 管領 ② 執権 ③ 御内人 ④ 得宗

32 下線部 j について、室町幕府最後の将軍とその兄の組み合わせとして、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 兄：義植 弟：義澄 ② 兄：義輝 弟：義昭
③ 兄：義澄 弟：義晴 ④ 兄：義晴 弟：義輝

問題Ⅲ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1603(慶長8)年に徳川家康が征夷大将軍となり、江戸幕府を開いた。(A)年には武家諸法度が制定され、大名^aは厳しく統制された。この法度は、これ以降も将軍代替わりごとに、内容が多少変更されつつ発布されていった。一方、幕府の職制も次第に整備されていき、幕府の中枢を担う重臣たちは老中と呼ばれ、旗本を監督する若年寄や、大名を監察する大目付、そして、(B)・町奉行・勘定奉行の三奉行などが置かれた。

また、朝廷対策としては、禁中並公家諸法度が制定され、これにより、幕府^bによる朝廷への統制が強まった。そして、1620(元和6)年には、2代将軍秀忠の娘である和子を(C)に入内させた。その後、(C)^cは幕府に不満を持ち、突然讓位した。

幕府の基盤が整備されていく寛永期頃には、新たな文化が芽生えた。学問では、朱子学^dを中心とする儒学が盛んに学ばれるようになった。また、この時代の建築としては、数寄屋造の(D)が有名である。

3代将軍家光が死去した(E)年には(F)を中心とした幕府転覆計画が露見した。これが慶安の変(慶安事件)^eである。その後、1680(延宝8)

年には綱吉が5代将軍となり、その補佐として（ G ）を大老として諸政策を進めた。しかし、（ G ）が暗殺された後は、側用人の権力が強まった。綱吉は、儒教の教えを中心にすえて統治することを命じ、（ H ）を建てた。また朝廷とも協調する方針をとり、応仁の乱以降中止されていた大嘗祭を復活させた。

また、生類憐みの令を發布して、犬をはじめとする生き物の殺生を禁じた。そのため農村では猪や鹿などが畑を荒らしてもすぐには殺せず、まず威嚇するために銃を撃ち、それでもおさまらない場合に限り、殺すこととした。しかし、その場合には、老中まで報告しなければならなかったのである。

さらに、貨幣政策においては、勘定吟味役の（ I ）が、それまで流通していた金・銀の含有率が高い貨幣（慶長金銀）に替わって、品位の低い新たな貨幣を铸造した。

この綱吉が統治していた元禄期には、上方が中心となって町人文化が繁栄し、井原西鶴は、『好色一代男』のような風俗小説、いわゆる（ J ）を多く書いた。一方、近松門左衛門は、人形浄瑠璃などの脚本を多く手掛けた。

33 空欄（ A ）に入る最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 1613 ② 1614 ③ 1615 ④ 1616

34 下線部 a は、将軍との関係の近さで3つに区分された。その区分に該当しないものは何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 守護 ② 親藩 ③ 外様 ④ 譜代

35 空欄（ B ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 遠国奉行 ② 作事奉行 ③ 道中奉行 ④ 寺社奉行

36 下線部 b に関連して、朝廷側において幕府との連絡役が決められた。その役職は何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 武家伝奏 ② 蔵人 ③ 奏者番 ④ 参議

- 37 空欄（ C ）に入る最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 後陽成天皇 ② 光格天皇 ③ 後水尾天皇 ④ 孝明天皇
- 38 下線部 c は、1627年に起きた事件が契機となったが、それは何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 紫衣事件 ② 宝暦事件 ③ 明和事件 ④ 生麦事件
- 39 下線部 d については、京都の相国寺の僧侶であった藤原惺窩が有名であるが、その門人で家康に仕えた者は誰か。最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 室鳩巢 ② 伊藤仁斎 ③ 金地院崇伝 ④ 林羅山
- 40 空欄（ D ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 東求堂 ② 桂離宮 ③ 醍醐寺三宝院 ④ 西本願寺飛雲閣
- 41 空欄（ E ）に入る最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 1645 ② 1647 ③ 1649 ④ 1651
- 42 空欄（ F ）に入る最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 山県大弼 ② 大塩平八郎 ③ 由井（比）正雪 ④ 竹内式部
- 43 下線部 e が起こった後に、関連して幕府が同じ年に打ち出した政策は何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 末期養子の禁緩和 ② 殉死の禁止
③ 領知宛行状の発給 ④ 服忌令の公布
- 44 空欄（ G ）に入る最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。
- ① 酒井忠清 ② 堀田正俊 ③ 阿部正弘 ④ 井伊直弼
- 45 下線部 f の役職で、綱吉政権の後半に重用された者は誰か。最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 間部詮房 ② 新井白石 ③ 田沼意次 ④ 柳沢吉保

46 空欄（ H ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 彰考館 ② 湯島聖堂 ③ 古義堂 ④ 弘道館

47 下線部 g の命令は20年余りの長い間に次々と発布されたものであるが、最初に出されたのは何年か。最も適切な年を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 1682 ② 1685 ③ 1688 ④ 1691

48 空欄（ I ）に入る最も適切な人名を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 荻原重秀 ② 神尾春央 ③ 大岡忠相 ④ 田沼意次

49 空欄（ J ）に入る最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 黄表紙 ② 人情本 ③ 読本 ④ 浮世草子

50 下線部 h が手掛けたものではない作品は何か。最も適切な語句を次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 『曾根崎心中』 ② 『冥途の飛脚』
③ 『世間胸算用』 ④ 『国性爺合戦』

